

## 日本産業ストレス学会 研究法講座（令和7年度第2回）

■テーマ：「質的研究：現象学的研究」

■日 時：令和8(2026)年2月22日(日) 13:00-16:00

■場 所：オンライン（Zoom）にて開催

■参加費：日本産業ストレス学会会員 2,000円、当学会非会員 4,000円、  
学生・大学院生 1,000円

※参加費にはオンデマンド配信の視聴料が含まれます。

### ■研修プログラム：

令和5年度から、研究法講座では質的研究法を取り上げています。今年度は第三弾として、現象学的研究を扱います。哲学の領域で生まれた現象学の考え方を元に、既存の知識や理論を保留し、当事者の体験を深く掘り下げていく現象学的研究の手法は、特に看護学や社会学でよく用いられています。一方で、量的研究になじんだ方からすると、その考え方や結論の導き方は大きく異なります。その理論について学んだり、指導いただいたりする機会も少ないかと思います。

今回は、日本赤十字看護大学の細野先生にお越しいただき、現象学的研究の基礎からお話しただけることになりました。既に質的研究に取り組んでいる方、またこれから質的研究を行いたい方にも役立つ知識になるかと思いますので、ぜひご参加を検討ください。

13:00-14:00 理論編：「現象学的研究に関する講義」

14:00-15:00 実践編：「現象学的研究の実践」

15:00-16:00 質疑・個別研究相談（希望者のみ）

講師：細野 知子（日本赤十字看護大学・准教授）

### ■オンデマンド配信について：

研究法講座では、参加費をお支払いいただいた方に、事後のオンデマンド配信を行っています。オンデマンド配信については令和5(2023)年度第2回研究法講座から導入しましたが、非常に好評をいただき、非会員にも配信してほしいとの要望があったため、令和6(2024)年度より標準的に導入いたしました。当日のご参加が難しい方も、オンデマンド配信でぜひ研修をご覧ください。

■配信日時（予定）：令和8(2026)年2月24日(火)～3月31日(火)

■配信方法：講義パート（理論編）のZoom録画を、YouTubeにアップロードして限定公開

### ■講座の対象と内容：

対象：研究の経験がない方を含むすべての方。

内容：現象学的研究の理論的背景、および手法の特徴について学ぶ。

**■申込方法 :**

1. 下記申込フォームから参加登録を行ってください。

<https://forms.gle/czrD66WkutbyYBCj8>

2. 参加お申し込みから一週間以内に、郵便局備え付けの払込取扱票をご利用のうえ、下記振替口座に参加費のお振込みをお願いいたします。参加費は参加者区分によって異なりますので、お間違いのないようお振込みください。

**郵便振替口座番号 : 01720-6-85434**

**ネットバンクなど他行からお振込の場合**

**ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900）店名：一七九店（イチナナキュウ店）**

**預金種目：当座 口座番号 : 0085434**

**口座名義：日本産業ストレス学会研修会**

**※備考欄に「令和7年度第2回研究法講座参加費」と明記ください。**

3. ご入金を確認できた参加者のみなさまには、後日、登録いただいたメールアドレス宛に、研修のためのZoomのURLをお送りいたします。

**■申込受付 :**令和7(2025)年12月22日(月)～令和8(2026)年2月13日(金)

(定員100名。定員になり次第、締切致します)

**■申込・問合せ先 :**日本産業ストレス学会事務局

〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3F (株)ヒューマン・リサーチ内 担当：上田

E-mail: [jajsr-office@human-research.co.jp](mailto:jajsr-office@human-research.co.jp)

講師担当窓口 渡辺(北里大学) : [kzwatan@kitasato-u.ac.jp](mailto:kzwatan@kitasato-u.ac.jp)

## 日本産業ストレス学会研究法講座内容・水準シート

水準 この研究法講座は、以下のレベルの方を対象にしたものです。

	◎=主な対象 ○=受講可能な人
1 研究をしたことのない人	○
2 データ収集と分析の経験のある人	○
3 修士在学・修了者などこれまでに研究の経験のある人	◎

内容 この研究法講座では、以下の内容を学ぶことができます。

項目	内容	この講座で学べるもの ◎=主に学ぶもの ○=関連して学ぶもの
A 疫学研究編		
1 研究の基礎	価値のある研究とは何か、仮説とは	
2 研究デザイン	研究デザイン、バイアス、研究ガイドライン	○
3 データ収集	必要サンプル数、尺度の使い方、倫理的配慮	
4 統計解析	推定と検定、解析モデル、統計ソフト	
5 論文の書き方	論文執筆、投稿、査読対応	
B 質的研究編		◎